

中小企業景況情報

本情報は、県内12商工会で実施した中小企業景況調査の集計結果(180企業)をまとめた

建設業

発行・長崎県商工会連合会
長崎市桜町4-1
長崎商工会館8階
問い合わせ先 TEL 095(824)5413

〔主要景況項目の動向〕

期 主要項目	2021年 10月～12月	2022年 1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	2023年 1月～3月(見通し)
売上額						
採算						
資金繰り						
業況の動向						



D・I 50.1～100



D・I 20.1～50



D・I 20～△20



D・I △20.1～△50

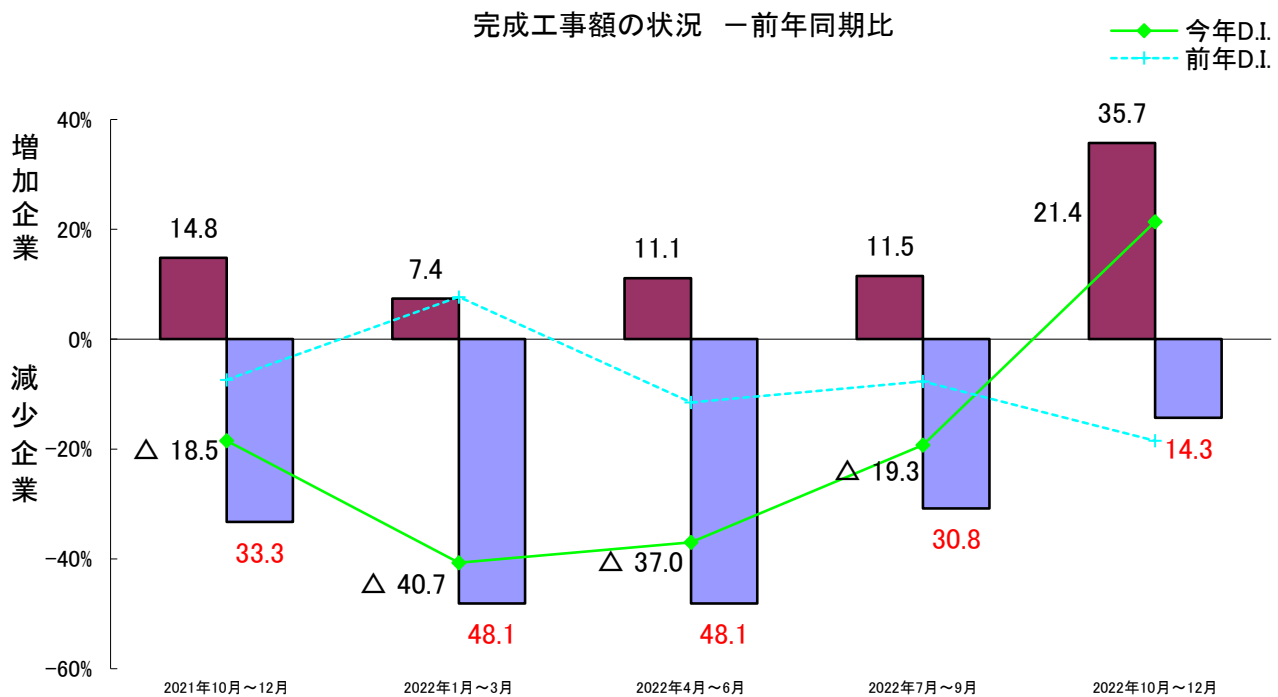


D・I △50.1～△100

〔調査対象企業のコメント〕

製造業	<ul style="list-style-type: none"> 多少ではあるが、品物の動きがよくなってきた気がする。しかし、原材料価格の上昇やコスト上昇のせいか資金に余裕はない。【野菜漬物製造業(缶詰, 瓶詰, つぼ詰を除く)】 急激な円安のため仕入れ価格が上昇しており、今後、売上価格に転嫁できなければ、大幅な利益の減少が予想される。【石工品製造業】 10月より注文が少し増加しており、年末に向けて良い方向に向かっている。ただ、経費の増加が進んでおり、値上げをしないと厳しい状況になってきている。【めん類製造業】 毎月のように材料代が上がってきている。そのうえ、材料不足で仕入れるのも困難になってきている。【建築用木製組立材料製造業】 天候に左右されるため、原材料の確保がこれからの時期、難しくなってくる。【その他の水産食料品製造業】
建設業	<ul style="list-style-type: none"> 今期はコロナの状況も落ち着いて、仕事をするのにあまり困らなかったように思う。これからまた、コロナが増えてくると仕事が減るのでは・・・という心配がある。【建築工事業(木造建築工事業を除く)】 夏の売上が少なかったため、資金繰りが大変。【内装工事業】 2022年度も半期が過ぎ、今期は小規模の住宅リフォームが増加した。仕事の大小による仕事内容は変わらないので、日々が多忙である。また、大工・左官職人の高齢化が進んでおり、対応が難しい。【一般土木建築工事業】 依然として資材の値上がりが止まらず、生コンの単価が4,000円上がり、見積りどおりの受注が難しくなっている。受注した工事は多いが、職人不足により現場がまわらない。【一般土木建築工事業】
小売業	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染者数が再び増加したことにより、消費者の動向はテイクアウトのスタイルが主流となってきているようだ。原材料の高騰はしばらく続くだろう。人件費上昇も続くだろう。こうした現状への対応力がカギとなるだろう。【酒小売業】 買い物の仕方が変わった。買い物を楽しむというよりも、時短・便利・お手頃価格に重きを置くようになってきている。【婦人服小売業】 原油の価格は相変わらずで、物価高のため、お客様の購買意欲も下がってきている。儉約ムードが高まり、この状況で先の見通しも暗くなっているように感じる。年末年始での需要が上がってくれることを願っているけれど・・・。【ガソリンスタンド】 人材不足で顧客先を訪問できていないところが、厳しいところ。手分けて回ってはいいるが、現状まだまだ足りない。今後、少しずつでも改善できれば、売り上げは上がってくると思う。【医薬品小売業】 コロナによる制限がなくなり、全国旅行支援制のお陰で売上は戻っている。しかし、国際情勢の激変による物価高がいつまで続くのか不安である。来年以降も、新たな支援策が必要だと感じる。【菓子小売業(製造小売)】
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> 仕入等の価格高騰での厳しい経済状況であったが、原価を抑えたメニューを作るなど工夫した。採算面はまだ分かっていないが、みんなで工夫しながら、回復するのを待ちたい。【飲食店】 多様な旅行者向けサービスや朝ドラの影響もあり、観光客が増えている。旬の魚を使用したメニューを提供する等、工夫したところ、注文して下さるお客様やリピート来店が増えている。【そば・うどん店】 急激に観光客が増加している。これに伴い、利用者のニーズも多様化。ゆっくりしたい方、一方で効率的に観光したい方もいる。車の装備や支払い方法も都会的なことが求められ、今後の会社の方向性を探っている。【自動車賃貸業】 全国旅行支援が始まって観光客は明らかに増えた。おかげで昼営業は好調であるが、夜は相変わらず伸び悩んでいる。売上自体は若干持ち直したが、仕入高も上昇しており、利益は上がらない。【他に分類されない飲食店】 コロナの落ち着きとともに、行事や慶事が増えていることを実感している。特に秋は冠婚葬祭が多く、少し忙しかった。冬になると閑散期になるので、コロナの増加具合によっては不安がある。【普通洗濯業】

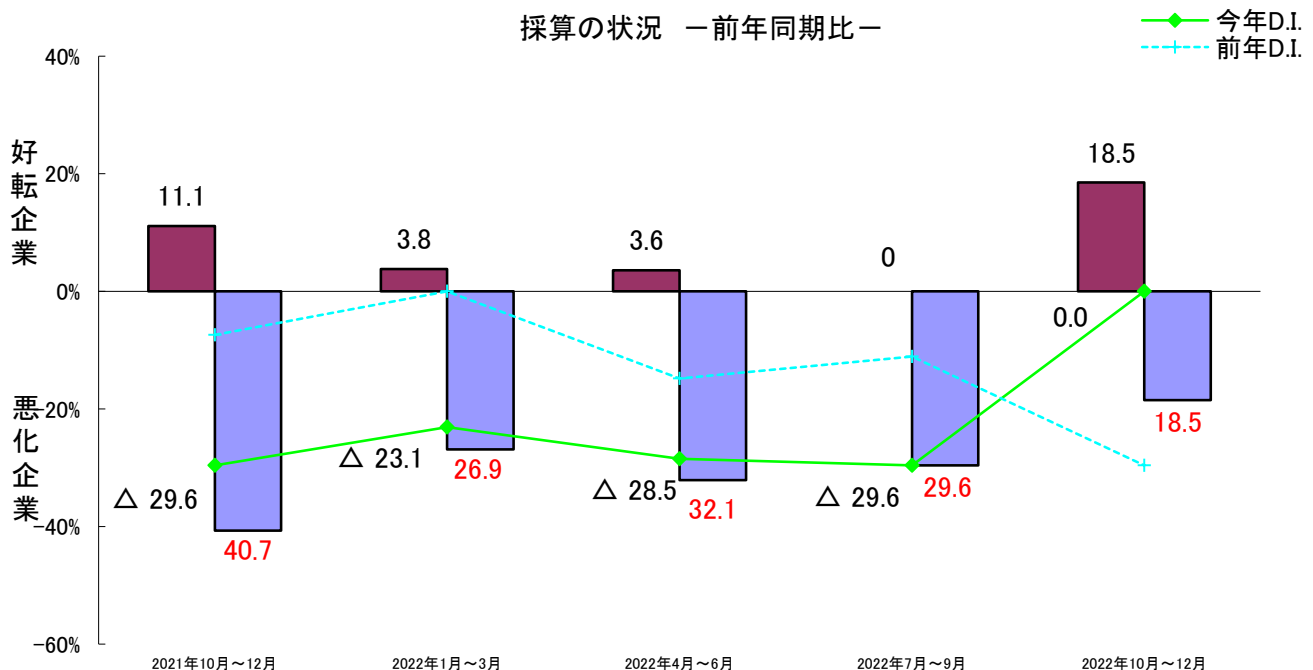
①【建設業】売上の動向



今期、売上が「増加した」と答えた企業は35.7%と、前期の11.5%から24.2ポイント増加した。また、「減少した」と答えた企業は14.3%と、前期の30.8%から16.5ポイント減少した。したがって、今期のD・I値は21.4と、前期の△19.3から40.7ポイント改善した。

「来期の見通し」では、増加すると予測した企業は32.1%、減少すると予測した企業は14.3%で、これにより来期のD・I値は17.8と、今期の21.4から3.6ポイントの悪化を予測している。

②【建設業】採算の動向



今期、採算が「好転した」と答えた企業は18.5%で、前期の0%から18.5ポイント増加した。また、「悪化した」と答えた企業は18.5%で、前期の29.6%から11.1ポイント減少した。したがって、今期のD・I値は0と、前期の△29.6から29.6ポイント改善した。

「来期の見通し」では、好転を予測した企業は14.8%、悪化を予測した企業は18.5%で、これにより来期のD・I値は△3.7で、今期の0から3.7ポイントの悪化を予測している。

③【建設業】新規設備投資の状況

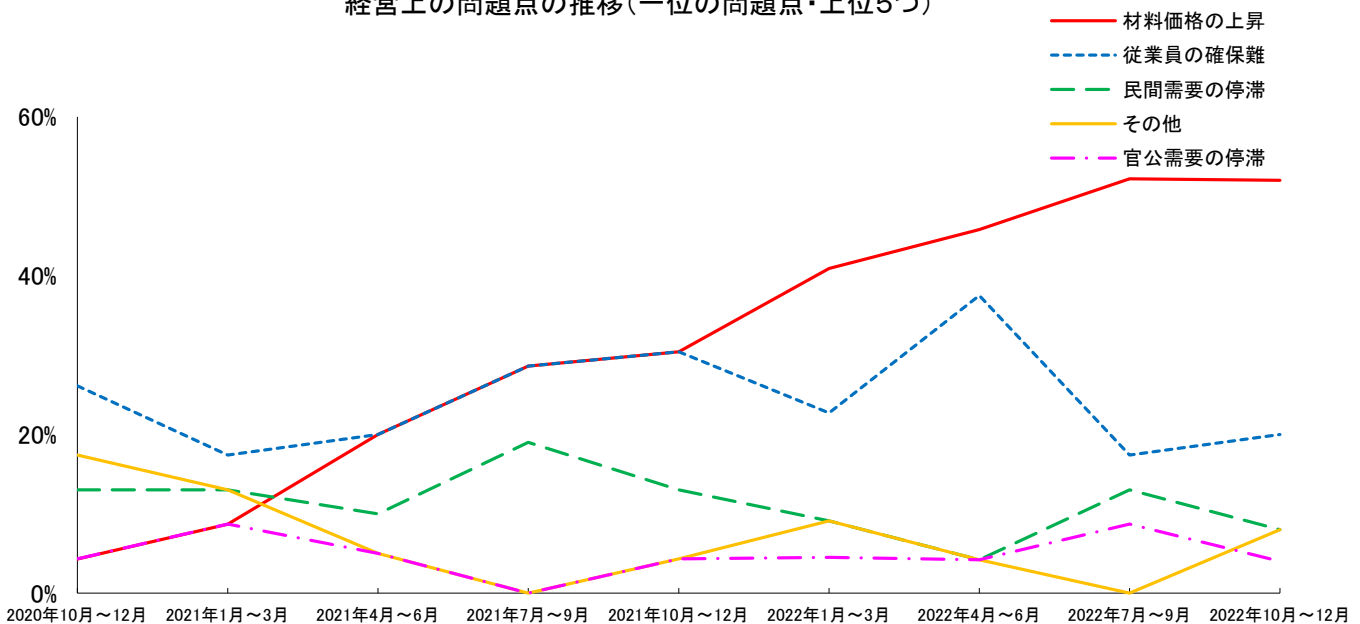
※投資内容は複数回答 (%)

項目 期	実施 して 計 画 る	投資内容								実施 して い 計 画 い
		土 地	建 物	建 設 機 械	車 両 ・ 運 搬 具	付 帯 施 設	O A 機 器	福 利 厚 生 施 設	そ の 他	
今 期 (2022年10~12月)	11.5	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	88.5
来 期 (2023年1~3月)	7.1	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	92.9

今期、設備投資を行った企業は11.5%で、前期に設備投資を行った企業(7.1%)を上回った。来期は7.1%の企業が設備投資を計画している。

④【建設業】経営上の問題点

経営上の問題点の推移(一位の問題点・上位5つ)



今期の経営上の問題点は、第1位が「材料価格の上昇」で52.0%、第2位は、「従業員の確保難」で20.0%、第3位は「民間需要の停滞」、「その他」で8.0%、第5位は「官公需要の停滞」、「材料費・人件費以外の経費の増加」、「熟年技術者の確保難」で4.0%だった。「材料価格の上昇」が、依然として深刻な問題となっていることがうかがえる。

⑤【建設業】来期の見通し

売上(収入)額			採 算			資 金 繰 り			業 況		
2022年 7~9月期	2023年 10~12月期	2023年 1~3月期	2022年 7~9月期	2023年 10~12月期	2023年 1~3月期	2022年 7~9月期	2023年 10~12月期	2023年 1~3月期	2022年 7~9月期	2023年 10~12月期	2023年 1~3月期
△19.3	21.4	17.8	△29.6	0.0	△3.7	△7.2	0.0	7.1	△3.7	10.8	3.7
傾向	↗	↘	傾向	↗	↘	傾向	↗	↗	傾向	↗	↘

(注) ↗ 増加・好転、→ 不変、↘ 減少・悪化を示す。

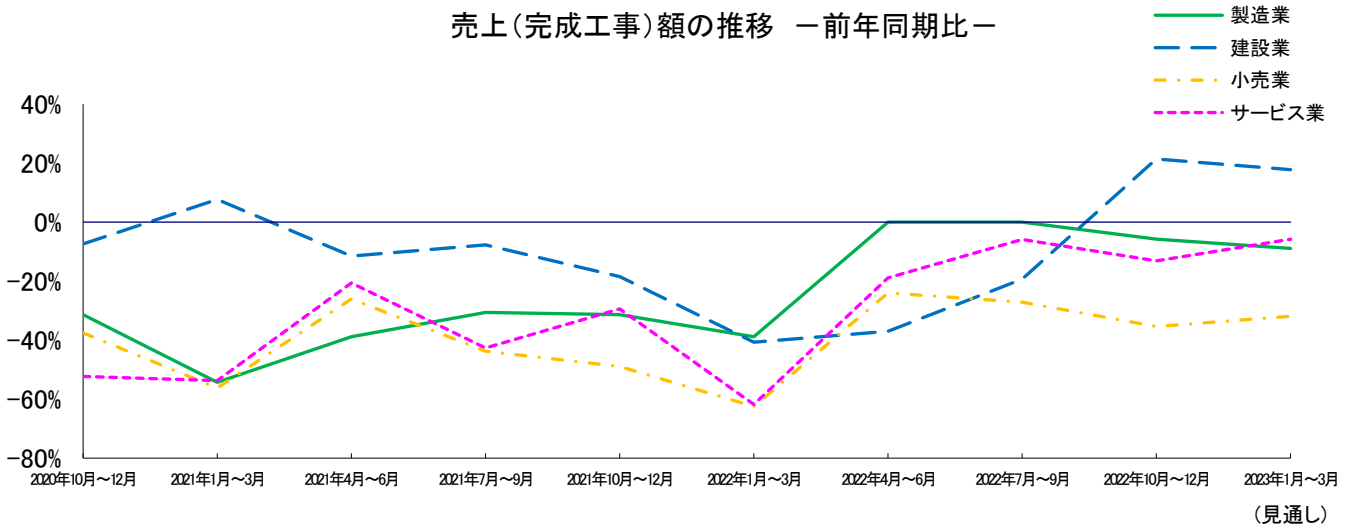
来期の見通しは、「資金繰り」で増加・好転を示しているが、「売上(収入)額」、「採算」、「業況」の3項目では、減少・悪化を示している。調査対象企業のコメントでは、資材価格の値上がりが見積どりの受注が難しくなっているとの声があがっている。

【売上】

今期、改善を示したのは、「建設業」（40.7ポイントの改善）、悪化を示したのは「小売業」（8.3ポイントの悪化）、「サービス業」（7.2ポイントの悪化）、「製造業」（5.8ポイントの悪化）であった。

来期の見通しでは、「サービス業」（7.3ポイントの改善）、「小売業」（3.5ポイントの改善）の2業種で改善を示しており、「建設業」（3.6ポイントの悪化）、「製造業」（3.1ポイントの悪化）の2業種では悪化を示している。

売上(完成工事)額の推移 -前年同期比-

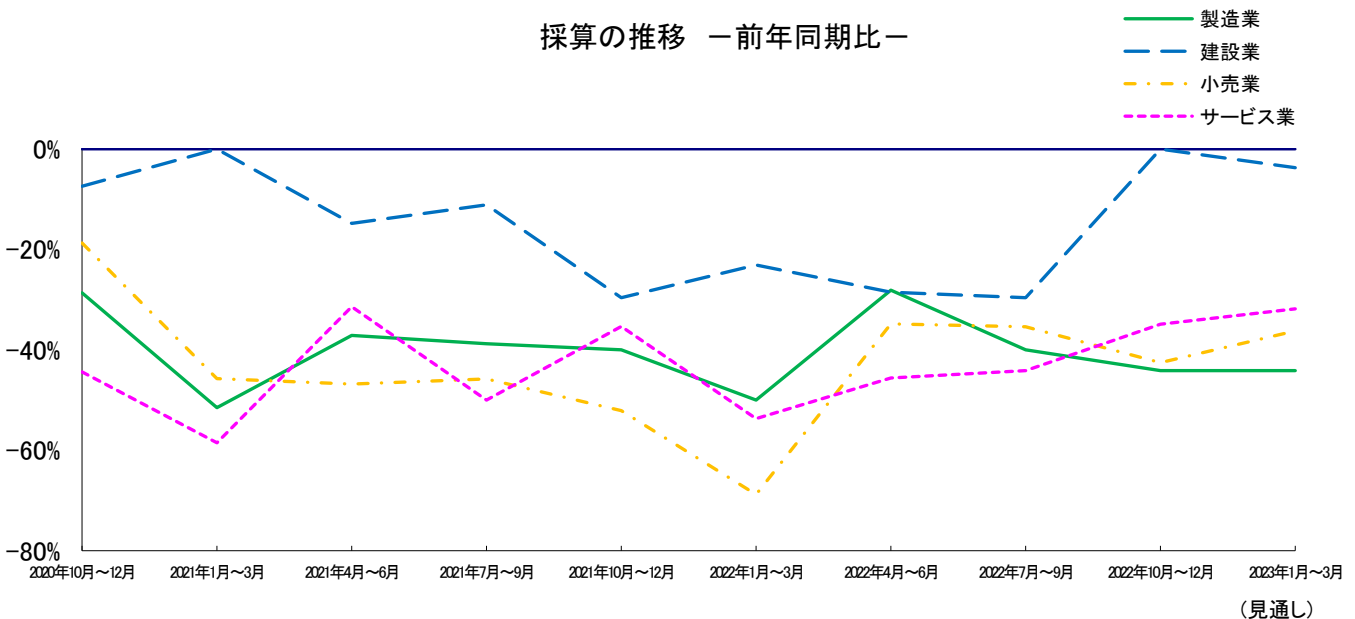


【採算】

今期、改善を示したのは、「建設業」（29.6ポイントの改善）、「サービス業」（9.2ポイントの改善）だった。悪化を示したのは、「小売業」（7.1ポイントの悪化）、「製造業」（4.1ポイントの悪化）、の2業種であった。

来期の見通しで改善を示したのは、「小売業」（6.3ポイントの改善）、「サービス業」（3.1ポイントの改善）、悪化を示したのは、「建設業」（3.7ポイントの悪化）であった。また、今期から不変を予測しているのは、「製造業」であった。

採算の推移 -前年同期比-



【注】 本レポートの中で「D・I」とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略です。例えば各調査項目について増加(又は上昇、好転、長期化)と答えた企業の割合から、減少(又は低下、悪化、短期化)と答えた企業の割合を差し引いた値を示す表示です。マクロ指標等では表れにくい経営者マインドを敏感につかむ事ができます。